

The Waste Land

木村功プロデュース 渡辺淳一文学館ドラマティックライヴ

Dance Act 語り動く響き2022

荒地に

死・性・復活を象徴する長編詩をモダンダンスする

ダンス創作・出演

飯間百花

斎藤桜

岩田ちなみ

木村功

100年前スペイン風邪のパンデミックの際、死・性・復活を
テーマに書かれたT・S・エリオットの長編詩。
独り語りとモダンダンスで作る象徴的な舞台作品。

Photo：荒井純一

2022.7.2 (土) Start 14:00
(Open 13:30)

渡辺淳一文学館 札幌市中央区南12条西6丁目414
TEL:011-551-1282

入場料：2,500円 要予約・80名限定

原作：T・S・エリオット『荒地』The Waste Land

翻訳：西脇順三郎

再構成・演出：木村功

舞台：Ohsign

音響・照明：平岩堅志(渡辺淳一文学館)

音楽：坂本龍一作品集より

宣伝写真：荒井純一

舞台監督：阿部一恵

Program

The Waste Land

第1部

読み語り

中島敦『山月記』

(30分作品)

再構成・演出：木村功

中島敦『山月記』

『彼は極めて数少ない傑作を残して昭和17年、34歳で死んだ。その処女作に於いて円熟していた。それは"円熟という言葉が彼の内的世界の完成"という意味に於いてである。

山月記、李陵が良く知られている。古代中国に材を求めた緻密な文体の傑作。

(小説家・詩人：福永武彦)

第2部

語り動く響き Dance Act

T・S・エリオット原作『荒地に』

(30分作品)

T・S・エリオット『荒地』

作者はヨーロッパ文学のあらゆる方面から暗示を受けて書いた学者である。「文学から文学を生み出した」代表的作品である。

この詩全体の話はそれ自身が統一のある一つの話の筋というものがない。単にいろいろの挿話が「意識の流れ」として連続されているにすぎない。ただ死、性、復活というテーマがくりかえされていると考えても良い。詩の美は昔から遠いものを連続する事によって詩的構成を目指している。これは西洋詩の伝統であるが、それを一つの詩的活動の重大な仕組みとしている。

(詩人：西脇順三郎)

出演



飯間 百花

いいまももか

斎藤 桜

さいとう さくら

岩田 ちなみ

いわた ちなみ

木村 功

きむら いさお

語り動く響き

2005年に活動開始した「語り動く響き」は物語を語る具体性とモダンダンスの精神性及び哲学が有機的に作品上で響きあう事を重要テーマとして舞台作品を創作しています。木村功と飯間百花の共同制作団体。

【会場・ご予約・お問合せ】 渡辺淳一文学館

札幌市中央区南12条西6丁目414 TEL：011-551-1282

駐車場のご用意はございません。公共の交通機関か近隣の駐車場をご利用ください。

【主催】 渡辺淳一文学館 【後援】 札幌市・札幌市教育委員会

